



フクロ-パンの学び



「どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。」(使徒 10:35)

「ですから、神の栄光のために、キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい。」(ローマ 15:7)

## 〇はじめに

何事も、初めて経験する時の印象はその後の時間に影響を与えていくものです。あなたが最初に KGK に参加した時の印象はどのようなものだったでしょうか。最初が学内活動だった人もいれば、ブロックや地区活動という人もいるでしょう。初めて参加した時のことを振り返り、その時の印象を書き出してみましょう。

良かった印象 . . .

良くなかった印象 . . .

私たちの交わりは、何よりもまず神様が私たちを神の民として受け入れて下さったところから始まっています。主イエスの十字架によって罪赦された 1 人 1 人は、神様の前に受け入れられ、互いに生きる者とされました。そして主は、私たちに対して互いに受け入れ合うことを教えています。

フォローアップはまさに、その主の御旨に従って生きる取り組みの 1 つです。このブックレットでは具体的な取り組みを 10 項目で紹介していますが、基本姿勢は「人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい」（マタイ 7:12）です。まず歓迎する心を持ち、相手の立場になって考え、自分がしてもらえたら嬉しいことを相手にする。自分から声をかけに行ったり、隣に座ったりなど、自分ができることや時間を与えていくことが重要です。そして、その中で「受けるよりも与えるほうが幸い」（使徒 20:35）との主のみことばを学びとっていただけたら幸いです。

## 1. 事前準備から始まるフォローアップ

「さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。」(マルコ 1:35)

4-5月には新入生を迎える時期です。また、年度の途中であっても、聖書研究会に興味を持っている学生がふと参加しにきたり、思いがけず自分の友人が会に足を運んだり、新メンバーを迎えるタイミングは様々です。フォローアップは、その人と初めて会う時に始まるものではありません。会に参加する前であっても、また、来ることが決まっていない段階であっても、私たちにできることはたくさんあります。

特に、その段階で誰にでもできることの1つは祈りです。主イエスは公生涯において多くの働きをなされましたが、1人静まって祈る時間を欠かすことはありませんでした。祈りをもって働きを始めていき、祈る中で父なる神の心を確認し続けていたと言えます。私たちも、主ご自身が会に働かれることを祈り求め、祈りのうちに自分にできることが何かを聞いていきましょう。祈りは、人を変えることのできる神様に届けられます。自分達には不可能に思えることも、神様には可能です。その主に期待をもって祈ることから始め、フォローアップの体制を築いていきましょう。

オンライン活動でも、実際に集まる集会でも、できる限りの備えをしておくことが重要です。会として備えることはもちろん、自分の心も迎える準備をしておきましょう。初めて参加しようとしている学生がいるならば、その学生への配慮を忘れないようにしましょう。

事前に会の説明（何をするか、どこでやるのか、何時までやろうとしているか、必要なものはあるか、どんなメンバーがいるかなど）を丁寧にしておくことが肝心です。オンライン活動の場合は、使用するツールの案内をしましょう。KGKではZOOMなどを活用していますが、新入生には使用したことがない人も多くいます。丁寧な案内とともに、ミーティングURLの共有など、どうやったら参加できるかを忘れずに伝えましょう。

対面集会の場合は、会場までのアクセスを伝えることも必要です。事前の個人的なやりとりが、グループへのスムーズな合流につながります。

<考えてみましょう>

- あなたが祈りに覚えない学内・ブロックの友人や知人は誰ですか。

## 2. 全員が担う

「あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。」(ヨハネ 15:17)

「信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。」  
(使徒 2:44～47)

主イエスが弟子たちに命じられたことは、「互いに愛し合う」という生き方でした。初代教会では互いに主の救いの恵みを覚え、共に生きる歩みを実践していました。誰かがやればよいという考えではなく、救われた者 1 人 1 人が自分にできる分を担っていたのです。

フォローアップにおいても、奉仕者など一部の人が頑張ればよいという話にはなりません。共に主のことばに生き、皆でこの働きに与っていく先に、多くの実りが待っています。

新来者にとっては自分が歓迎されているか、ここに自分の居場所があるかどうか最大の関心事です。「何人に話しかけられるか」よりも「何人に話しかけられなかったか」を気にする傾向があります。当日集まった際には、役員や奉仕者に任せきりにせず、自分に何ができるかを考え、機会を見つけては声をかけに行きましょう。2 人ないし 3

人1組で話かけに行くことによって、助け合うこともできます。交わりを通してフォローアップをしていくとき、自分と共通の趣味や話題などがなかったとしても、他の人となら話が弾むということもよく起こります。

そして交わりに招くことがフォローアップです。自分がすべての人と仲良くなれなくても、会の中で誰かとつながってくれることを祈りましょう。オンラインでの集会の場合は、交わりに入っていけないことが多く、発言しづらい環境です。司会者やリーダーが意識して話を振ってあげるなどの配慮が必要でしょう。また、司会者や話をしている人を孤立させないためにも、チャット機能を用いてレスポンスをするなど全員が参加している工夫を考えましょう。

<考えてみましょう>

- あなたが属しているグループには、どんな賜物を持っている人が集まっていますか。
- グループの中で、あなたが担えることはどんなことでしょうか。

### 3. 一言でも、とにかく話かける

「イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。』ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。」

(ルカ 19:5～6)

声をかけることは、相手に関心を示すとても大切な行為です。それは必ずしも長いやり取りを必要とせず、簡単でも十分こちらの思いを伝えることができます。ザアカイと主イエスとの出会いを見ていくとき、ザアカイに変化をもたらしたのは1分もたたないくらいの主のことばでした。町の誰もがザアカイを「罪人」と呼び、主イエスだけは「ザアカイ」と彼の名を呼び、自ら彼との関りを求めていったのでした。

私たちが新しく出会う人に対して、主イエスと同じようなやり取りをするのはまず無理でしょう。それでも、相手の名を呼び、あいさつと自己紹介をして一言「よろしくお願いします」と言葉を交わすだけでも相手の印象は大きく変わるものです。いきなり深い話をさせられるよりも楽だったりする人もいます。話しかけてくれた、聞いてもらったという事実が肝心です。テンションは無理に上げなくても大丈夫です。賑やかな環境が苦手な人もいますし、不自然な盛り上がりはかえって逆効果になります。短くても一言、会の初めと、そして終わりに繰り返し話しかけることを意識しましょう。今後の活動に来てくれるかどうかは、どういう終わり方をするかにもよってきます。

会の最初の時間帯はフォローアップのことを意識して声掛けなどしていても、時間がたつにつれてその意識が薄まってしまうことがあります。特に、プログラムが終わると同時に初参加者へのフォローを忘れてしまいがちです。しかし、帰り際こそ、次回の活動につなげるチャンスです。歓迎をもって迎えたなら、来てくれたことへの感謝を忘れず、また会えることを願って、別れる時間を大切にしましょう。場所を移動して食事を共にするなど、可能な範囲で関係を築いていくことをおすすめします。

<考えてみましょう>

- 主イエスに名前を呼ばれたザアカイは、どのような思いだったと思いますか。
- 初めて参加した集会で、誰からも声をかけられなかったとしたらあなたはどのような思いになると思いますか。

## 4. 自分が何者かを伝える

「神は仰せられた。『ここに近づいてはならない。あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。』さらに仰せられた。

『わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』モーセは顔を隠した。神を仰ぎ見るのを恐れたからである。」

(出エジプト 3:5～6)

知らない人の中に飛び込むことは、恐れを抱いたり、緊張したりするものです。誰だか分からない人と時間を過ごすということも余計に疲れを覚えます。神様は、ご自身のことを表す時にご自分が何者であるかを様々な表現で伝えていきました。人は、そのようにご自身について語る神のこトバを通して、目には見えない神を知ることができました。新入生歓迎会などでは、初参加者の名前を積極的に聞く機会が多いでしょう。それと同じくらい、いやそれ以上に、自分の名前を相手に知ってもらう行為も重要です。相手の名前を覚えるだけではなく、相手にこちら側のことを知っていただいて、安心できる環境を整えましょう。

オンラインで ZOOM を使用する場合は、自分の名前を絶えず相手に表示できるメリットがあります。対面集会では名札を用意して、自分たちが何者であるかを伝えていきましょう。自分の名前が初見では読めないだろうと思う場合は、ひらがな表記も忘れないようにしましょう。学年や学科もあるとつながりが増します。また、KGK 内では互いにニックネームで呼び合っていることもあります。自分が呼ばれている名を表記しておくことも 1 つの知恵です。

オンライン環境下では、相手の表情を見て不安や安心を抱きやすいものです。無理をして顔を作る必要はないですが、画面を on にし、まずは自分がその時間を楽しむ姿を相手に見てもらいましょう。画面に見えるところでリアクションをしてあげることも、相手に伝わりやすいため大切です。

<考えてみましょう>

- これまで参加してきた集会で、印象に残っている自己紹介はどのようなものですか。

## 5. フリータイムは特に要注意

「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。」（Ⅰペテロ 5:2）

自由な時間は初参加者が孤立しやすい時間帯となるため、特に注意が必要です。プログラムの中でグループタイムや食事の時間が決まっている時は、積極的に話しかけに行く意識があります。しかし集会前後のフリータイムや、プログラムとプログラムの間こそ声掛けの意識を持ちましょう。1人になっている人がいないか、一瞬でも気にかけるだけで大きな違いをもたらします。

Ⅰペテロ 5章のみことばにあるように、神様が送ってくださった一人一人の魂に関心を向けて、状況を観察し、想像力を働かせながら心を込めて私たちにできることをなしていきたいと思います。

オンライン集会の場合は、参加した瞬間が一番戸惑うタイミングです。何をしたら良いかわからない時、入った瞬間に画面を off にしたくなります。そのまま on にすることなく参加を続ける人も出てくるでしょう。プログラムが始まるまでは BGM を流し、「開始時間までしばらくお待ちを」といった待機スライドや画面を用意しておくといいでしょう。

対面集会の場合は、開始前も終了後も上級生が声をかけに行くなど孤立させない工夫をグループで考えておきましょう。参加しやすく帰りやすい環境は「次回また来たい」との思いにつながっていきます。

## 6. 相手を自分よりも優れている者とする

「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。」(ピリピ 2：3～4)

上級生・下級生、クリスチャン・ノンクリスチャンという違いは、無意識のうちに相手を自分よりも下に見てしまう偏見を生みだします。相手が下級生やノンクリスチャンだからといって、自分より劣る存在ではありません。自らへりくだり、相手の言葉に耳を傾けましょう。KGK用語やクリスチャンワードは気を付けながら使用する必要があります。そもそも、KGK が何を表していることは知らない人の方が圧倒的に多いです。会話をするときには「この言葉は聞いたことがある？」と確認し、知らない場合は説明をしましょう。

時には、自分たちよりも聖書に精通しているノンクリスチャンの学生がいたり、KGK のことをすでに知って入って来る新入生もいます。私たちに与えられたこれまでの経験や学んできた聖書知識は主からのものとして感謝して受け止めつつ、同時に、まだまだ知らない事も多い者として謙遜を身につけましょう。

## 7. 司会者はプログラムの丁寧な説明を

「すると、民は私に尋ねた。「あなたがしているこれらのことは、私たちにとって何を意味するのか、説明してくれませんか。」

(エゼキエル 24 : 19)

神様は、預言者の言動を通してご自身の御心をあらわにしていきました。預言者が神のことばに従って生きることで周りの人たちの関心を引き寄せ、その行動の意図を伝える事で神のことばがより具体的に伝わっていったのです。

KGK がそれぞれの学校、ブロックで行っている一つ一つのことは世の他の所では経験できない事ばかりです。自分たちの活動を何のためにしているのかを伝えるだけでも、それが証となり伝道となります。初参加者にとっては、KGK の時間は何もかもが新鮮です。わからないことだらけの状態に参加しています。特に未信者の学生は、祈ることや賛美、聖書といった信仰に関することについても知らないことは多いです。今は何をやる時間なのか、簡単なことばでもいいので会の司会者は一つ一つのプログラムに丁寧に説明をする意識をもちましょう。

自分が初めて KGK に来た時のことを振り返り、何がわからなくて困ったかを思い起こしながら初参加者を迎えられると具体的な行動を起こしやすいです。

<考えてみましょう>

- なぜ聖書研究を行うかについて、あなたはどのように説明しますか。

## 8. 次回日程を決めておき、伝えることを忘れない

「二人が会堂を出るとき、人々は、次の安息日にも同じことについて話してくれるように頼んだ。会堂の集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神を敬う改宗者たちがパウロとバルナバについて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みにとどまるように説得した。次の安息日には、ほぼ町中の人々が、主のことばを聞くために集まって来た。」

(使徒 13：42～44)

会の終わりには、次回の日程を伝えることを忘れずに。せっかく新入生歓迎会や一回目の集まりに来てもらえても、次いつ集まるかが決まっていないと活動につなげられないということがよくあります。次の予定をあらかじめ確保してもらうためにも、毎週なのか、隔週なのか、何曜日に集まるかを決めてその場で案内しましょう。また、終了予定時間には終われるように時間管理も徹底しましょう。

時間が延びる場合は、一度区切りをつけるなどをして、予定がすでにある人への配慮を示すことも大切です。

オンラインミーティングは余計に疲れやすい傾向があります。人によって疲労度は異なるものの、1回あたりの長さは休憩をはさみつつ長くても1時間30分～2時間が望ましいでしょう。

## 9. 連絡先を聞き、「あっさり」「長期間」誘い続ける

「すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。」「求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。」

(伝道者の書 3 : 1,6)

伝道者の書 3 章には、私たちの人生における様々な「時」があると語られています。それは運命論のような意味もなく定まったレールの上を私たちが歩んでいるというものではなく、定まったときの背後に神様の働きがあり、神様の御手の中で一つ一つのことが起こっていることを聖書は教えているのです。

フォローアップも、そのことを心に留めつつ相手と関わり続けることが必要です。一度来てくれたからといって、その後何もしなくても自動的に活動につながるとは限りません。「その後」がとても重要になってきます。個人的に連絡先を聞き、連絡をしましょう。フォローアップは「がつり」を「短期間」ではなく、「あっさり」を「長期間」続ける意識で。最初は全く興味がなかった人が、上級生の声かけによって数年経ってから突然つながりだす場合もあります。

連絡する際は、同性の先輩から声をかけるなどの配慮も必要です。そして学内リーダーや、グループの中で声かけ役をあらかじめ決めておくとスムーズにフォローができます。会に来てくれたことへの感謝と、「次回も待っているよ」などの一言でも後日連絡があると、活動に参加しやすくなります。

また、KGK の活動以外で教会に誘う時は注意が必要です。相手がすでに教会に行っている場合は、その人が遣わされている地があるということです。その教会のことをないがしろにせず、自分の教会に引き込むことはやめましょう。教会の何らかの集会に誘う時は、牧師の許可をもらってくるように声をかけましょう。

<確認しましょう>

- あなたが所属している学内活動、ブロック活動は、それぞれいつ、どこで、何時から何時まで開催されていますか。その案内はどのようになされていますか。

## 10. よく祈る

「絶えず祈りなさい。」(I テサロニケ 5:17)

最後に、繰り返し初参加者のために祈りましょう。会が始まる前はもちろん、終わったあとも祈ることを忘れないようにしましょう。彼らは「数字」ではなく、1人の「人格」です。新来者が1人であっても、その1人の人が来てくれた事実を喜び、声をかけ続け、そして祈り続けましょう。人の人生を変えることができるのは、「私」「私たち」ではなく、「神様」ただお1人です。祈りをもって始め、祈りで終えることを心がけながら、主がなされるみわざに期待してフォローアップを続けていきましょう。

<祈る時間を持ちましょう>

- 学内、ブロック活動でのフォローアップの取り組みのために。
- 初参加者が与えられるように、活動につながるように。
- 最近来られなくなっているメンバーのために。

## ＜あしがき＞

このテキストは、北海道地区で取り組み続けているフォローアップの学びを土台に作成しました。地区によっては新入生歓迎会の持ち方も異なるでしょうし、それぞれの学内活動、ブロック活動でも集まり方は異なります。

このブックレットを参考にしつつ、それぞれの活動に沿ったフォローアップの取り組みをぜひ模索していただきたいと思います。フォローアップの取り組みは、迎える側の意識 1 つで大きく変わります。主が私たちを神の民へと迎え入れて下さった恵みを忘れずに、私たちも KGK に加わって来る 1 人 1 人を喜びをもって迎えていきましょう。

KGK 北海道地区責任主事

杉本潤

\*聖書 新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会

フォローアップの学び

2023年4月 初版発行

著者 杉本潤 (KGK北海道地区責任主事)

発行者 キリスト者学生会

発行所 キリスト者学生会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 402号室

TEL 03-3294-6916、FAX 03-3294-6050

E-mail [info@kgkjapan.org](mailto:info@kgkjapan.org)

URL <http://www.kgkjapan.org>

表紙デザイン：長谷川直子